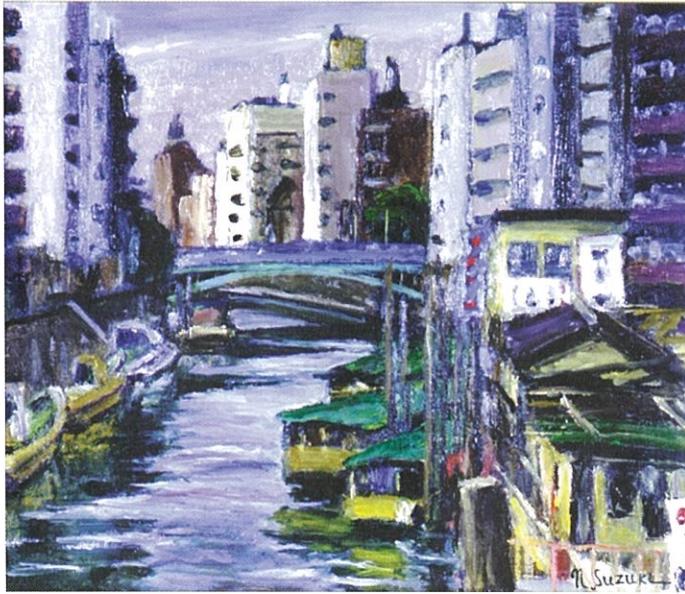
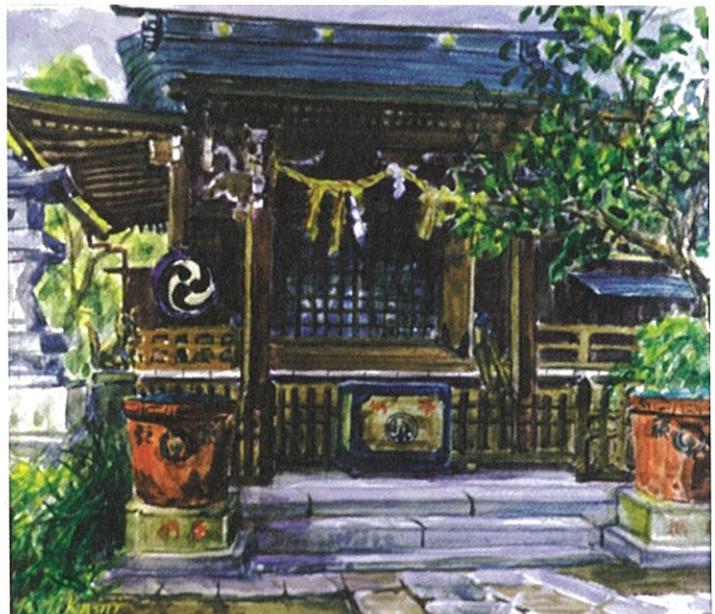


和泉橋地域の まちづくり

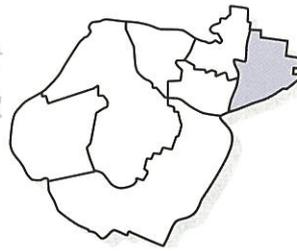


鈴木直寿 「浅草橋付近」



三上まき 「柳森神社」

和泉橋地域の まちづくり



地域に根ざした新たな産業を育む、 活気と人情豊かなまち

和泉橋地域は、都心の利便性を活かし、新たな産業構造への転換を進め、都心居住
が促進された活気と人情豊かなまちを目指します。また、親水性を高めた神田川の水
の軸や道路空間などを活かして、人々が気軽にふれあえるような、人情あふれる空間
づくりを進めます。

和泉橋地域の特性

地域の移り変わり

和泉橋地域は、江戸期には現在の中央通りに沿って職人町が発達したほか、神田川沿いには舟運を利用
して流通関連の業種が多く立地し、全体として町屋が高密度に広がっていました。

関東大震災によって地域の大部分が焼失しましたが、震災後の復興区画整理事業により、靖国通り、昭
和通り等の幹線道路が整備され、地域の骨格が形成されました。

昭和の初めには、秋葉原旅客駅が設置されて交通の拠点となり、現在も、秋葉原駅はターミナル駅とし
て多くの人々に利用されています。また、秋葉原駅周辺では区画整理事業等による基盤整備が進められ、
常磐新線の開通も予定されているなど、今後の一層の発展が期待されています。

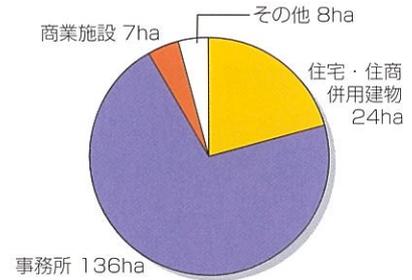
市街地は、戦災でも大部分を焼失しましたが、繊維・金物・薬品等独特の間屋が集積し、住商の混在する町として発展しました。現在、それらの間屋街がつくる面影は、繊維街を除いて消えつつありますが、ビルの所有者が上層階に住むなど、引き続き職住近接（住む場所と働く場所が近くにあること）の暮らしが営まれ、人と人のつながりを大事にする下町的な良さも保たれています。

地域の現況

土地利用（土地の使われ方）

和泉橋地域は全域が商業地域に指定され、また、比較的小さな敷地が多く見られます。近年では、職（商）と住が共存するにぎわいのある下町型のまちから、中小の事務所ビルとして活用された業務地へと変化しつつあります。

また、各種の間屋街等、独特の産業集積も地域の特徴となっています。



和泉橋地域の用途別建物床面積
資料：千代田区土地利用現況調査（平成8年度）

住宅・住環境（住まいなどのようす）

1世帯当たりの人員が2.29人と他の地域に比較して高く、依然としてファミリー世帯が住み続けているものの、高齢化（高齢者比率23.9%）や人口減少が続いており、住商混在によるにぎわいある下町的な住環境は損なわれ、コミュニティも形成しにくくなってきています。（数字は平成9年現在）



和泉橋地域の人口・世帯数・世帯当たり人員
資料：住民基本台帳統計資料（各年1月1日現在）

業務・商業環境（オフィスや店舗のようす）

繊維、金物、薬品の各種流通など独特の産業の集積を大きな特徴とした、個性と活力ある下町型の業務・商業地が形成されてきました。しかし、業務地化の進行にともなって、その個性も失われつつあり、特徴の少ない業務主体の市街地への変化がみられます。

都市施設（道路、公園などのようす）

昭和通り、靖国通りなどの幹線系道路や鉄道・神田川により地域の骨格が形成されています。それらの骨格や区画道路によって整然としたまちとなっていますが、その内側には細街路も多くみられます。また、間屋街では荷捌きスペースの不足がみられます。

このほか、多くの乗降客でにぎわう秋葉原と神田駅が、鉄道各線の集まるターミナル駅として交通の拠点形成しています。

公園として、和泉公園や児童遊園などが整備されていますが、十分とはいえません。

市街地環境（景観、防災などのようす）

神田川、橋、橋詰め広場、幹線系道路など、地域の個性と魅力を創出する資源に恵まれています。しかし、幹線系道路沿道を除くと、小規模なビルの建て詰めもみられ、身近な緑や防災上有効な空地が乏しいなど、ゆとりやうるおいに欠けた街並みや防災上の課題もみられます。

地域のまちづくり資源

和泉橋地域において、守り、育て、活かすべきまちづくりの資源は…

下町らしさのある界隈

古くからの神田の下町らしさを醸し出している街並みがみられます。

歴史ある問屋街（繊維問屋、薬問屋、金物問屋等）

神田川の水運の便を活かして発達した様々な産業の問屋街があり、現在でもなお独特の雰囲気がある街並みをつくっています。また、神田金物通りなどでは美しい銀杏並木の続く街並みがみられます。

神田川や川沿いの空間、橋、橋詰め広場、柳森神社等

地域の名称ともなる和泉橋をはじめ、神田川や橋詰め広場、緑豊かな柳森神社などが、全体として特徴的な水辺の景観をつくり出しています。



下町風情を醸し出す金網稲荷



独特の街並みをつくっている繊維問屋街



地域の名称ともなる和泉橋

地域の重要課題

和泉橋地域のまちづくりに向けた重要課題は…

居住促進による、活力ある地域づくりと新たな下町らしさの創出

和泉橋地域では、オフィスの進出と人口の減少が続いており、地域のコミュニティが損なわれてきています。職住近接等の都心の利点を活かして居住を促進するとともに、生活利便施設を充実させることが重要です。また、まちをよく知る多くの高齢者や、働く人など多様な人々を含めた豊かな地域コミュニティと活力を育むことにより、新たな下町らしさを創出することが重要です。

和泉橋地域の まちづくり

にぎわいの空間をつなぐ、安全で快適な歩行空間の確保

神田駅東口付近などには、交通量が多いにもかかわらず歩道のない道路が多く、また、高架・ガード沿い等は、緑が少なく、散歩を楽しむ雰囲気に欠けた空間となっています。このほか、昭和通りなどの幹線道路による地域の分断もみられます。緑とゆとりある歩行空間の整備、駅・飲食店街などのにぎわいの空間や幹線道路の両側のまちをつなぐ回遊動線の確保など、歩行者の視点からの道路空間づくりが重要です。

神田川等を活かした、緑と憩いの場の確保

神田川や和泉公園などの資源がありますが、身近な公園や緑、オープンスペースは不足しています。神田川の活用をはじめとした自然に親しめる場の創出、防災性の向上にも配慮した緑と憩いの場の確保等が重要です。



神田ふれあい通りのにぎわい

広報によるハガキアンケートの声より

- ・ 業務地、商業地の中にもっと集合住宅をつくり、職住のバランスの良いまちづくりをしてはどうか。都心なので全てにおいて（交通、買い物の選択の多さ、公共施設の質が高く、立地がよい）便利である。緑のスペースを増やし、ゆとりを人々にもたらしで欲しい。勤務している地であるが、居住したい区でもある。（鍛冶町一丁目在勤・40代・女性）
- ・ 固定資産税額を減税するなど、住みたくなる、住み続けられるまちとして欲しい。（鍛冶町二丁目在勤・60代・男性）
- ・ 三世代が暮らせるようなまちづくりを望む。（神田佐久間町三丁目・50代・男性）
- ・ 都心の特性を活かした豊かなコミュニティが形成され、昼間も夜間も活気のある地域のまちづくりをしてもらいたい。（神田佐久間町三丁目・60代・男性）

和泉橋街づくり協議会での討議より

- ・ 備蓄倉庫のある一ツ橋高校を防災の拠点とし、地区の防災性の向上を図ってはどうか。
- ・ 歴史的に整備された広幅員の道路は、分断要素ではなく、路地へのつながりを工夫するなどして、資源として活用して欲しい。
- ・ 神田川は単なる用水路ではなく、親水性の向上、開放感の創出により、魅力資源として再生して欲しい。

和泉橋地域

整備方針図

神田和泉町、神田佐久間町二・三・四丁目、
神田佐久間町河岸、東神田三丁目、神田平河町

1

全体的には中層の複合市街地として、和泉公園や公共施設のゆとりとうるおいを活かし、住宅と商業・業務施設の調和する、災害に強いまちをつくります。

中高層階への住宅の整備や良好な街並み形成、安全な歩行空間の確保などを進めていきます。

生鮮食料品店等の生活に必要な店舗の充実を促進します。

和泉公園やちよだパークサイドプラザを地域のゆとり、うるおい、コミュニティ、防災等の核として活かしていきます。

6

神田川に顔を向けた街並みや快適な歩行空間をつくります。

親水性と水質の向上を図り、魚や昆虫が生育し、また、自然浄化がなされるよう努めます。
川沿いの建物などの形態を規制・誘導していきます。
川沿いに歩行空間やポケットパークなどの憩いの場の整備を進めます。

5

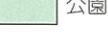
岩本町一・二・三丁目、東神田一・二丁目

全体的には中層の複合市街地として、問屋街等の雰囲気を活かしつつ、新たな産業への展開を進め、住宅と商業・業務施設が調和した、災害に強いまちをつくります。

一ツ橋高校や(仮称)岩本町二丁目複合施設に、備蓄倉庫やオープンスペースなどを設けた防災拠点の整備充実を進めます。

(仮称)岩本町二丁目複合施設を地域の核として、周辺も含めた住機能の確保、良好な市街地形成を進めます。

凡例

-  特に重点的な緑化を進める、緑の骨格となる通り
-  緑豊かで街並みの美しい、憩いの歩行空間を整備する通り
-  商業施設の賑やかさとコミュニティを育むふれあいの歩行空間を整備する通り
-  表通りゾーン
-  水と緑のうるおいゾーン
-  地区境界
-  地域境界
-  区境界
-  JR駅
-  地下鉄出入口
-  公園・緑地
-  河川・濠



性の向上のため、災害時の安全性に配慮した建て替えや豊かな道の創出を進めます。

通り・首都高速1号線及び靖国通りでは、道路によって地域が分れないよう、横断のための歩行者動線を確保します。
通りは緑の骨格として、沿道を含め重点的な緑化を進めます。
通りは緑豊かな街並みの美しい歩行空間を整備していき

通り沿道は、神田駅周辺のにぎわいを生み出す商業集積地に近い歩行空間づくりを進めます。